お 知 ら せ

令和元年５月 14 日
公益社団法人　京都市観光協会
公益財団法人　京都文化交流コンベンションビューロー

京都市観光協会データ月報／臨時（2019 年ＧＷ）について

～ゴールデンウィーク期間における京都 34 ホテル宿泊状況調査結果～

（公社）京都市観光協会および（公財）京都文化交流コンベンションビューローでは、京都市内の主なホテルの協力を得て国・地域別の宿泊状況調査を毎月実施し、「京都市観光協会データ月報」として、調査結果の発表を行っております。

このたび、本調査の一環として、2019 年ゴールデンウィーク期間（4 月 27 日～5 月 5 日）における京都市内 34 ホテルの宿泊状況について臨時調査を行いましたのでお知らせします。

1　調査結果のポイント

10 連休効果により平均客室単価、客室収益指数が約 2 割伸長。客室稼働率は連日 98%超を記録

○ ゴールデンウィーク期間中の京都市内 34 ホテルにおける客室稼働率は前年同期の 91.3%から 3.3 ポイント上回る 94.6%に達した。とりわけ、4 月 28 日～5 月 3 日の 6 日間においては、軒並み 98%以上と、ほぼ満室状態の極めて高い値で推移した。

○ また、平均客室単価（ADR）は 25,473 円と、前年同期の 21,646 円から 3,827 円（17.7%）上昇した。10 連休という、これまでにない大型連休であったため、高水準の客室単価が維持できたと考えられる。

○ 客室稼働率及び平均客室単価の上昇に伴い、客室収益指数（RevPAR）についても前年同期を 21.5%上回る成長を示した。

連休が長期化したことで需要が分散し、特に前半において需要が大きく底上げ

○ ゴールデンウィーク前半において、客室稼働率、客室平均単価（ADR）が前年同期よりも高い数値を示した。昨年はゴールデンウィーク前半が３連休、後半が４連休であったため、休暇期間が長い後半に需要が集中していたが、今年は 10 連休となったことで前半にも需要が分散し、ゴールデンウィーク期間全体としての需要が底上げ・平準化されたと言える。

日本人の予約時期が例年よりも早まったことで、日本人比率が 71.7%に上昇

○ ゴールデンウィーク期間中の外国人比率は 28.3%と前年同期の 38.1%から 9.8 ポイント減少し、日本人比率が 71.7%に上昇した。従来、日本人客は、外国人客と比べると宿泊予約の時期が遅いため、外国人客が先に客室を確保すること等により外国人比率が高まる傾向にあるが、国内需要が高まるゴールデンウィークという環境下、今年は特に 10 連休の効果で、日本人客の予約が例年以上に早まったことなどが背景にあると考えられる。

○ 昨年 2018 年の年間を通した外国人比率は 43.9%であった。外国人比率 20%台という数値は、5 年前の 2014 年（年間値 28.9%）の水準に匹敵する。

2　調査のあらまし

（１）概要

外国人宿泊状況をタイムリーに把握できるよう、平成26 年（2014 年）4 月以降、京都市内の主なホテルの協力を得て、国・地域別の調査（「実人数」「延べ人数」「延べ部屋数」）を毎月実施。

※全国で唯一の取組（京都市観光協会調べ）

なお、本調査では、ビジネス、観光を問わず、日本国籍以外のパスポートを有する人すべてを「外国人」として定義している。

今回は、同調査の一環として、2019 年 GW 期間中の宿泊状況について臨時調査を実施した。

（２）対象ホテル

・34 ホテル 8,388 室

※京都市内ホテルの客室数ベースで約 4 分の 1 をカバー（京都市観光協会調べ）

※従来のデータ月報の調査対象 54 ホテル（11,637 室）を対象に調査を実施し、34 ホテルから回答を得た。

※施設によっては一部項目のみの回答であったことから、分析項目によって対象ホテル数に変動あり（詳細は 3 ページのグラフごとに記載）

（３）調査数値

本年（2019 年）と前年（2018 年）のゴールデンウィーク期間中の各日の「客室稼働率」「客室平均単価」「外国人比率」について調査し、回答があった各ホテルの数値を、客室数に応じた加重平均を行い、統計値を算出。

（４）調査対象期間

4 月 27 日（土）~5 月 5 日（日）

＊ 5 月 6 日（月)は振替休日であったが、5 月 6 日の宿泊客は、平日である 5 月 7 日以降のチェックアウトとなるため、本集計からは除外している。

	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日
2019年	土	日	月・祝	火・祝	水・祝	木・祝	金・祝	土	日
2018年	金	土	日	月・祝	火	水	木・祝	金・祝	土

＜京都観光総合調査との関連について＞

京都市全体の観光動向の把握については、ほぼすべての市内宿泊施設（旅館業法許可施設）を対象とする「京都観光総合調査」（京都市から年 1 回発表）が基本指標となる。当調査は、インバウンドマーケットの傾向を把握するための、京都市内の主なホテルを対象とするサンプル調査であるため、その他ホテルや旅館、簡易宿所、いわゆる「民泊」等に宿泊した外国人客は含まれておらず、訪日外客数（日本全体）との比較等も参考分析という位置づけとなる。

＜本件に関する問い合わせ先＞
公益社団法人京都市観光協会　TEL：075-213-0070
マーケティング課　水上、堀江、加藤

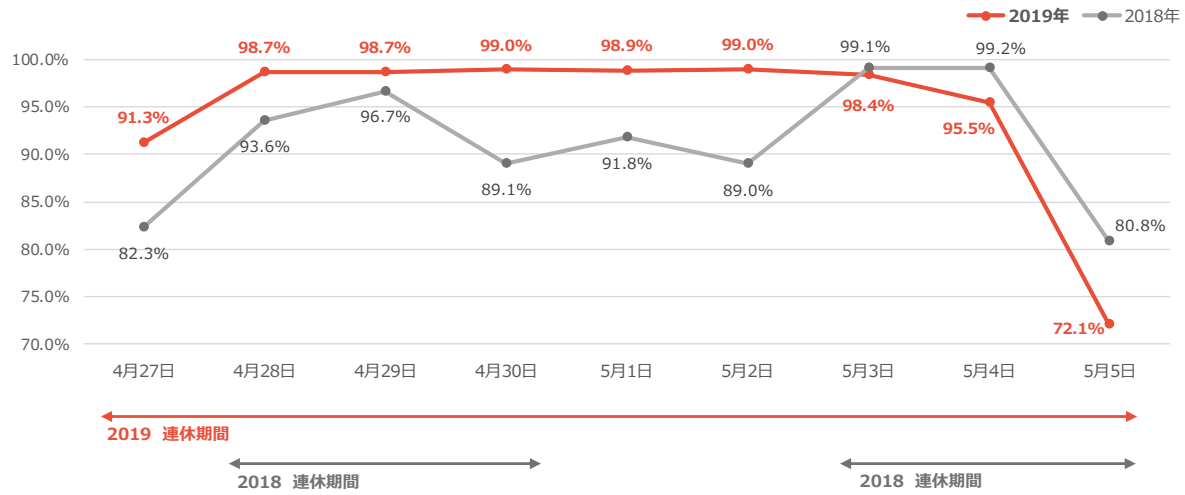
ゴールデンウィーク期間における京都 34 ホテル宿泊状況調査結果

1　各項目の前年比較

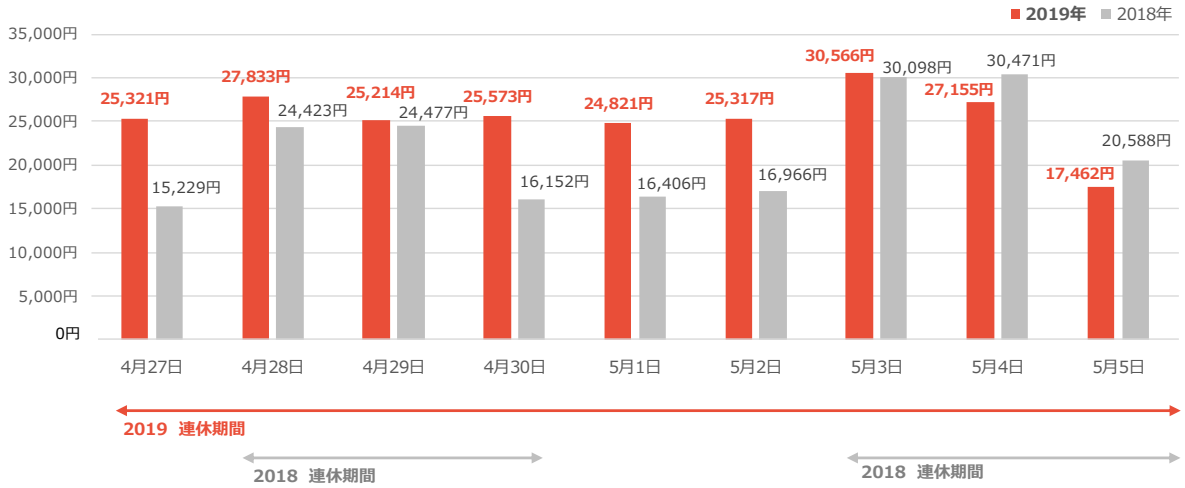
	2019 年 GW	2018 年 GW	伸率･前年同期差
客室稼働率（OCC）	94.6%	91.3%	+3.3 ポイント
平均客室単価（ADR）	25,473 円	21,646 円	+17.7%
客室収益指標（RevPAR）	24,308 円	20,010 円	+21.5%
外国人比率	28.3%	38.1%	▲9.8 ポイント

＊参考：2018 年･年間値（54 ホテル対象）：客室稼働率 86.4%、外国人比率 43.9%

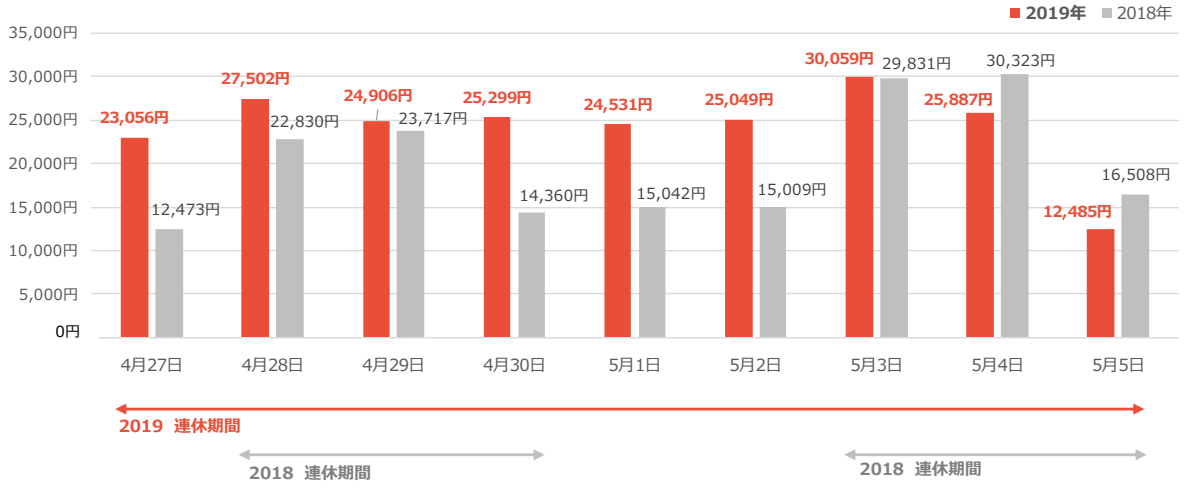
2　客室稼働率（OCC）の推移（対象ホテル数：34、客室数合計：8,388）



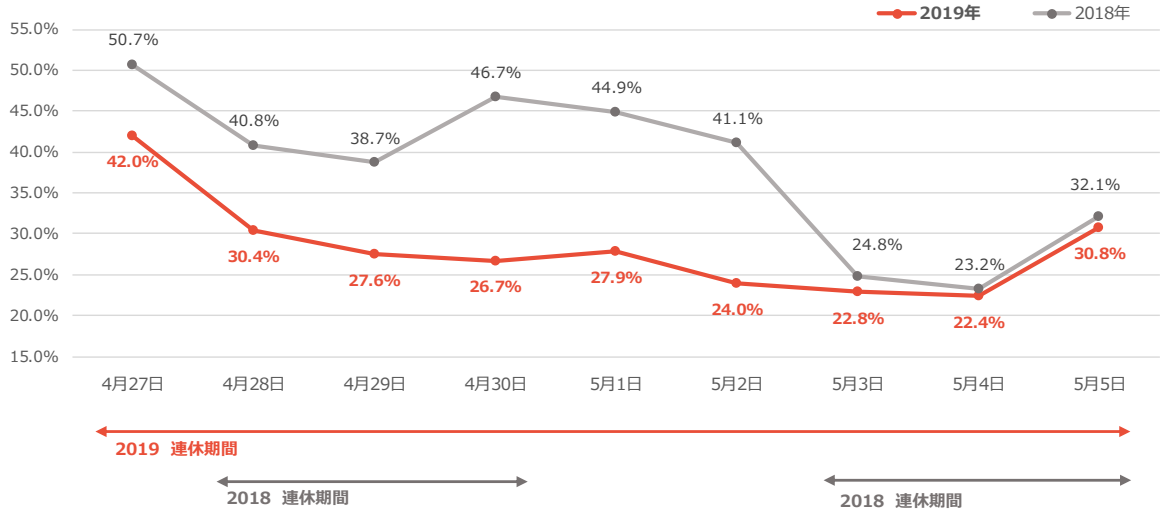
3　平均客室単価（ADR）の推移（対象ホテル数：31、客室数合計：7,809）



4　客室収益指数（RevPAR）の推移（対象ホテル数：31、客室数合計：7,809）



5　外国人比率の推移（対象ホテル数：29、客室数合計：7,052）



【用語解説】

OCC	Occupancy Ratio の略で客室稼働率を示す。
ADR	Average Daily Rate の略で平均客室単価を示す。
RevPAR	REVenue Per Available Rooms の略で客室収益指標を示す。販売可能客室数あたりの客室売上の数値で、客室稼働率（OCC）×平均客室単価（ADR）で算出される。

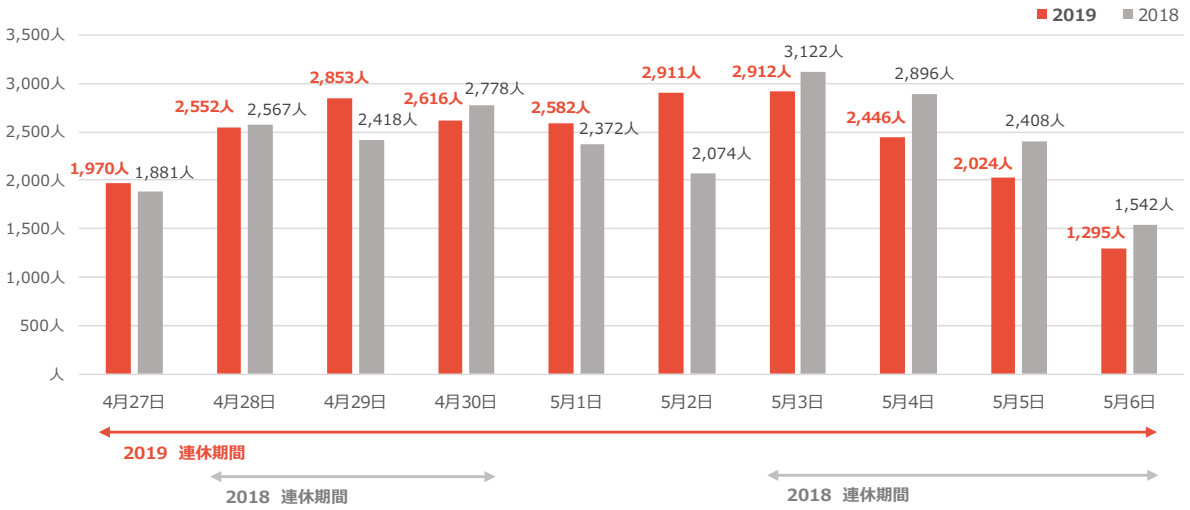
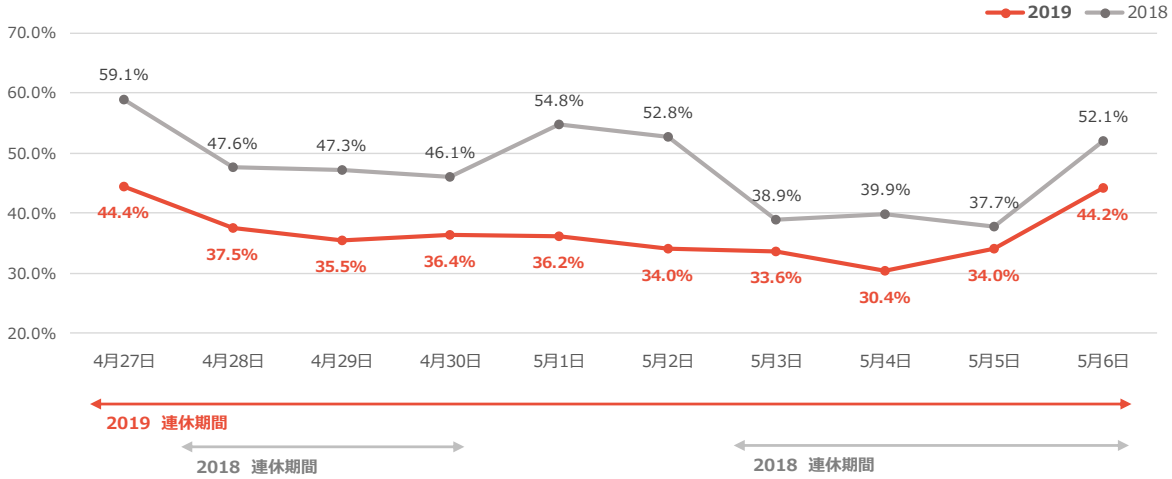
【参考】京都総合観光案内所（京なび）利用者数　※JR 京都駅ビル２階

1　各項目の前年比較

相談者数	2019 年 GW	2018 年 GW	伸率･前年同期差
日本人	15,458 人	12,824 人	＋20.5%
外国人	8,703 人	11,234 人	▲22.5%
合　計	24,161 人	24,058 人	＋0.4%
外国人比率	36.0%	46.7%	▲10.7 ポイント
来所者数＊	44,821 人	43,456 人	+3.1%

＊自動カウントによる

2　相談者数の推移



3　相談者数における外国人比率の推移